

# [dō:k]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務所 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4 Higashi-

Marnouchi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

N°22 le 5 octobre 1992 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## 笹川日仏財団が交流活動に助成金

92年前期 函館日仏協会に200万円など

笹川日仏財団（本部・パリ 理事長・J-Pブリュネ元駐日フランス大使）では、日仏交流を促進するような事業や活動に助成を行っており、その希望者を募っております。助成の範囲は、1. 日仏間の人物交流 2. 日本におけるフランス研究、フランスにおける日本研究 3. フランスでの日本語教育、日本書籍のフランス語出版 4. 芸術文化などいろいろな分野の催し物 となっており、対象は個人、法人を問いません。随時申し込みを受け付け、年2回審査して決定するとしています。

1991年度後期に承認された事業は6件、総額約3,600万円となっており、例えば、『冒険とスポーツの国際映画祭』アヌシー大会参加渡航費300万円、フランス関連分野の研究者渡航費助成トラベルファンド10名分850万円、『ビデオテレビフェスティバル』へのフランス人研究者招請140万円など。また1992年前期も6件・2,360万円で『ナチュラルチーズサミット・イン十勝』630万円、留学生グループによる『四谷怪談』公演330万円、函館日仏友好記念シンポジウムで函館日仏協会に200万円などとなっています。

申し込み方法など詳細を知りたい方は、事務局へおたずねください。要項をお送りします。

また、三重日仏協会でこの助成を受けられるような活動の企画がありましたら、ぜひご提案ください。

## フランス語に寄せて

水野悦子

週に一度私は旅に出ます。桑名からひたすら山あいの森の道を蛇行して、高速に車体を軋ませながら、それでも鈴鹿の峠を上りつめて一直線に津まで、緑の裾の中をかけ下りる時、昔聞いた懐かしい歌を思い出すのです。

La Nature est un temple où de vivants piliers  
Laissent parfois sortir de confuses paroles;  
L'homme y passe à travers des forêts de symboles  
Qui l'observent avec des regards familiers.

自然 それは神殿、その支柱たる息づく木々が  
時折 何やら 言葉を発する。  
人は木々の親しげな視線に守られながら  
サンボルの森を歩いて行く。(ボドレール コレスポンドス)

胸の奥底で折りに触れて動き出す「響き合うサンボルの森」が、ふわふわとより処なく消えて行く日々の日常の記憶の水底で私をひっぱり、とうとう又フランス語を習いに津へと走らせるのです。

中学生の時、ジョルジュ・サンドの「愛の妖精」を読んでフランス語を知りたいと思いました。17才、教科書にランボーの「SENSATION」が「感覚」としてありました。これで文学少女の出来上がり。そして三好達治の一フレーズ「海よ、僕らの使う文字では、お前の中に母がいる。そして母よ、仏蘭西人の言葉では、あなたの中に海がある。」やっぱりフランス語ですか。大学の4年間は、言葉の大海原で溺死寸前でした、フランス語から移す日本語が、私という日本語がみつからないのです。

Oisive jeunesse  
À tout asservie,  
Par délicatesse  
/J'ai perdu ma vie  
Ah! Que le temps vienne  
Où les coeurs s'éprennent

あらゆるものに縛られて  
無為に過ごした青春よ  
繊細に出来てるばかりに  
俺は人生をやり損なった。  
ああ心という心が夢中になる  
そんな時は来ないものか。  
(ランボ- 一番高い塔の歌)

そして23才、幾分かはランボ-の次の言葉に励まされ、社会に出ました。

L'automne déjà! Mais pourquoi regretter un éternel  
soleil, si nous sommes engagés à la découverte de la  
clarté divine, moi qui me suis dit mage ou ange,  
dispense de toute morale, je suis rendu au sol, avec un  
devoir à chercher, et la réalité rugueuse à étreindre!  
(Adieu)

もう 秋 神の輝きを見付けに出掛けた俺達だもの、  
どうして 行ってしまった太陽を今更惜しもうか。……  
錬金術士とも天使とも称したこの俺があらゆる道徳からとき放たれ  
大地に返される。なすべき義務を探し求め、このごつごつした現実を  
抱きしめて。

本当に「ごつごつした現実」の中で20年間、再び又、涸れる事のない言葉の水脈を掘り当てたくて、フランス語を学び始めたのです。これはもう私の死に至るまでの病？  
ともあれ 又始まった文学おばばに万歳！

## INFORMATIONS

### ☆ 江戸時代の桑名に <ドミニク・ドゥーセの店>が開店!?

10月の10日(土)11日(日)、桑名市で開催される『御台所祭り』にドミニクさんがブーランジュリーを特別出店します。みんなで応援に行きましょう。

場所 本統寺 境内(桑名駅より八間通り東へ5分)

時間 10日 AM11:00~PM6:00 11日 AM10:00~PM7:00

### ☆ ボジョレなど'92新酒を味わう会

11月19日(木)夜 津市大門<DADA>で。この日はフランス・ワインの「解禁日」、空輸されてきた新酒を待ちかまえて déguster します。

詳細は会員の長田さん(0592-25-7180)、DADA島田さん(0592-26-2025)まで。

## 連載 フランスおまかじり (7)

### 犬にも GESTES

フランス映画の魅力の一つとして、役の性格や生活にしみついた gestes がある。私たちの世代だと Jean GABIN や Pierre BRASSEUR などのちょっとした表情や身ぶりにしびれたものだ。しかしこれはもちろん俳優にかぎったことではなく、本来フランス人一般の身についたものだろう。私たちが最もしばしば目にするのは、あの「どうしようもない」「お手あげだ」「この上どうしろってのさ」などの gestes だ。これらととも、無力、あきらめ、やけ…それぞれの nuance の差によって gestes もちがってくるようだが、概して口を「へ」の字にまげ、肩をすくめ、掌をかえした両手を上げて広げるといふしぐさである。

今日は9月4日。で思い出したのだが、ある日 Avenu de l'Opéra を歩いていると Rue du Quatre Septembre と交叉する少し手前の建物の大木戸の前に一匹のシェファード犬が扉に向かって坐り、悲しげな声を出し、ときに吠え、ときに立ち上がって前肢で扉をガリガリやる、のをくりかえしていた。ははあ、うっかり閉め出されたな。

……と、一人の青年が近づき Tiens, tiens! Qu'est-ce qui se passe? Qu'est-ce qui t'est arrivé? Attends, on verra. かなんか言って、まず扉のノブをまわす、ロック解除のボタンを押す、呼鈴を鳴らす、扉を叩く、両隣の concierges に尋ねに走る。八方手をつくしたが、とうとう扉は開かなかった。

期待のまなざしで青年を見つめる犬に向かって Je ne sais plus rien, oh là là! と、彼は広げた掌を高く上げて首をすくめて見せた。そして立ち去りながら、なおも見送る犬を何度もふりかえっては、その gestes をくりかえした。(OURS)